

教科担任制推進事業指定校 拡大校内研究会

実施日	R4年 11月 14日(月)
教科・領域等	理科・水溶液
学 年	5年1組 19名
指 導 者	小林 祐二
題 材 名 等	もののとけ方
本時のねらい	食塩が水に溶けていく様子を観察しながら、気づいたことを記録する。
授 業 時 間	14時 40分 ~ 15時 25分
研 究 会	15時 40分 ~ 17時 00分
詳 細	<p>15:40~</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめの言葉(市川小教頭) 2. 市川小学校長あいさつ 3. 指導助言者あいさつ 雨宮正倫 県義務教育課指導主事 成瀬貴弘 峡南教育事務所指導主事 <p>15:45~</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 研究協議【40分】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業者より 本日の授業について (2) 質疑 (3) グループ協議(ジャムボードにて) (4) 全体協議(オンラインにて発表) <p>※前回の研究協議と同じ、ジャムボードを使ったオンライン形式で全体協議をしていきます。</p> <p>16:25~</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 指導・助言(雨宮指導主事・成瀬指導主事)【30分】 <p>16:55~</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 諸連絡 7. おわりの言葉(市川小教頭)

<p>討議の柱</p>	<p>今回の研究会は、以下のような点についても考える貴重な機会です。 前回の中学での授業とも比較しながら、ご自身と、市川中学校区 3 校。また、全校の小中連携を主軸とした教科担任制事業についても深く考えていただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の系統的な学び ・教科担任制事業として、半年間小学校理科専科が中学の理科の授業を参観してきた成果 ・小中連携について ・教科担任制について <p>これらを踏まえて、今回は討議の柱を2点設けました。 本時に至るまでの、考え方が指導案に詳しくのっていますので、そちらも参考にさせていただきながら、当日は授業を通して、討議をします。</p> <p>① 小中7年間を見通した指導内容であったか。 参考ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案P2 指導事項の系統 ・P4 校内研究との関わり ・P6 ~7 市川中学校との関わり <p>② 小中連携や、教科担任制を生かすためには、どのような取り組みを考えていったら良いか。 参考ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P4 校内研究との関わり ・P5 東小学校との関わり ・P6~7 市川中学校との関わり

令和4年度 校内研究の概要

市川三郷町立市川小学校

1 研究テーマ

小中9年間を見通した、地域で育つ安心して学び続ける児童の育成

～教科担任制を主軸とした小中連携教育の研究を通して～

2 研究の目標

小中9年間を見通した、地域で育つ安心して学び続ける児童の育成を目指し、小中連携を主軸とした教科担任制について、その内容と指導の工夫、制度の有効性について研究する。

3 研究仮説

先進校の研究や市川中学校区での3校での実践の検証を基に、教科担任制についての研究を深めることで、小中9年間を見通した、地域で育つ安心して学び続ける児童が育つであろう。

4 研究の内容

市川中学校3校(市小・東小・市中)による合同研究

○3校合同校内研

○課題を解決するためのアンケート作成

○専科教員による授業研究

○3校の交流事業

※児童の意欲・学力を向上させるために導入すべき教科担任制のあり方

※多面的な児童理解・小中ギャップ解消による児童の不安解消

※小学校教師の負担軽減をするための効率的な時間の使い方について